??広報お年玉クイズ??

正解は二通
岡田 植野さんに千五百円贈呈

みなさまにおくった広報お年玉クイズの応募数は、二百九十七通で、正解文に合致した解答文は二通あった。このクイズの穴は、25のタテと27のヨコのかぎで、「ヒト、コト」、「カン、キメ、ユメ」などが多かった。また、浜田勇子（物部）さんは折角く穴を解いていたのに、解答文に⑪のヨコのかぎを記載してなく、残念ながら落ちました。正解者の二名の方に、賞金を等分し千五百円を贈呈。

正解者
岡田美紀　立田五九四
植野　瞭　上末松一七八

ヨコのかぎ

①二代目市長は、――④良くても悪くても、コレにノります。⑦カイツブリの別名。⑨――局で、年中無休の公共事業ですヨ、⑩男が他家に入いり込むこと、⑬苦しく、酷なこと。⑭小さな川です。⑯イネのこと。⑱物価が高くてクルシイですヨ、池田さん。⑲小さいのも、大きいのもありますヨ。⑳浦島太郎は、玉手――㉒どう転んでも自分よりは目上ですヨ㉓これを通す人もいる。㉔背よりもこいですヨ。㉖人は、コレを知らなければいけない。㉗コレがよいのはみていて気持がよい。㉘いえば兄弟みたいなものですヨ。

タテのかぎ

②コレが多いと、倒産ですヨ、ご用心。③動物です。⑤えらい人の前などでは、たいがいの人が恐れて小さくなりますネ。⑥寝て待つことにしようカナ。⑧恋は恋でも……。⑪一方では、高い方が、一方では安い方がよいといっている。そのものズバリ。⑫市内の工場で、作られている農機具です。⑮人生行路には、何時もこれが必要です。⑯モナコでは公認の場所です。⑰馬とウサギ馬との混血児。⑲やはりコレがあるとよいですネ。㉑――馬にけられて死ねばよい。㉒彼と彼女のささやきは。㉔甘いものですヨ。㉕金を出すには、―を見定めて出しましょう。

■	1イ	2ケ	ガ	ワ	■	3リ	4ス	ト
6カ	■	ツ	■	7ニ	8オ	■	ク	■
9ホ	ウ	ソ	ウ	■	10イ	11リ	ム	12コ
ウ	■	ン	■	13ソ	ラ	シ	■	ウ
■	14オ	ガ	15ワ	■	ク	■	16ト	ウ
17ラ	■	18ク	ラ	シ	■	19カ	バ	ン
20バ	21コ	■	イ	■	22ア	ネ	■	キ
■	23イ	ジ	■	24ア	イ	■	25シ	■
26ハ	ジ	■	27ミ	メ	■	28イ	ト	コ

90年を過ぎた戸籍制度　3

二、戸籍の意義と使命

戸籍は近代的国家においては勿論それ以前の時代においても、為政者にとっては重要な制度であった。戸籍の持つ意義と使命は、時代の推移によって、変遷しているが、その根本は時の古今を問わず政治に深い関係のあったことは否定できない。しかし現在、戸籍の所在である本籍が、人の生活の本拠である住所と遊離したことにより、その目的も変更され、政治的使命は第二義的となっている。

戸籍は、人の身分関係を登録公証する公文書であって、いまでは、主として身分公証の使命を持っている。すなはち、人の出生から死亡に至るまでの身分上の出来事がこれに記載される。

壬申戸籍は、各人をその居住の地について収めたものであって、盗賊浮浪の取り締まり、徴税の資料、賦役、徴兵の資料などの行政目的の公文書であったが、明治以降の交通の発達や、経済生活の変せんに伴い、本籍を離れて他の土地に居住するものが多くなり、住所と本籍とは次第に一致しないようになった。

そこで、従来の戸籍が併有していた居住関係を公認する機能は、昭和二十七年に施行された住民登録法による住民票に移して肩代わりさせ、戸籍は、もっぱら人の身分関係を公証する使命を持つものに純化された。

すなわち、親、子、夫および妻という身分上の地位は、戸籍によって明らかにされ、かつ、身分に伴って生ずる権利義務（たとえば、親権者、遺産の相続人、遺族年金受給権者、または扶養義務者など）は、原則として戸籍によって証明される。

なお副次的に、人口動態統計の資料、戸籍の附票と相まって、住民票の正確性の担保、日本国籍の証明などの機能も営んでいる。

（未完）

生活と電気

冬期の電気災害を防ぎましょう

その一　電気暖房器具

〃こたつ〃や〃あんか〃など、電気暖房器具は、便利で衛生的にも大へん優れているので広く普及していますが、電気出火防止の安全装置として、自動温度調節器（サーモスタット）と、温度ヒューズ（過熱を防ぐため摂氏百十度で切れる）がついています。

電気暖房器具が故障を起こして修理をするときには、つぎの点に注意しましょう。

(1)自動温度調節器は、専門家以外はいじらないこと。

(2)温度ヒューズが切れたときは、必ず温度ヒューズを入れ、間違っても安全器にいれる電流ヒューズや、針金などを使わないこと。

(3)温度ヒューズが二度、三度と切れるときは、温度調節期の故障していることが多いので、四国電力が最寄りの電気店へ修理をたのむこと。

その二　切れたり、たれさがったりした電線には、絶対にさわらないようにしましょう。

降雪期になりました。電線のうえに雪が積り、その重さで電線が切れることがたびたび起こります。雪は絶縁体（電気を通しにくいもの）なので、電線が切れて地に落ちても、電気が停まらずにいることが多く、大へん危険です。切れたり、たれさがったりした電線をみかけたら、絶対にさわらないで、すぐ最寄の電力会社へお知らせください。降雪時には特に注意いたしましょう。

〝土佐のふるさと〟を描いた『国府村誌』

乾　常美

今から十年前の昭和二十六年五月、私は当時発行されていた『国府広報』へ、「伝承について」という一文を草したことがある。それは、故高村晴義氏著の『国府村誌』を読んで、大いに感銘を受け、伝承の尊さを身にしみて覚えたためであったが、いまここに、十年の才月を経て、新らしく発行された『国府村史』に接するに及んで、感慨またひとしおのものがある。

十年前、私はこう書いた。

〃高村氏は実に克明に村の風習慣習を調べ、史実を挙げ史伝をつたえ、過去から現在につながる村の文化的系図を余すところなく描いている。得難い文献であり尊い伝承の精神である。新村博士の『辞苑』によれば、伝承とは伝えうけることであり、社会進化の過程において、前時代の文化的遺産を次の時代に譲渡することであると出ているが、高村氏はこの仕事をなし遂げた人の一人である。今日私達が考えねばならぬのは、昭和の初頭高村氏が打ちたてられた伝承の精神を、更に次の世代のため継承する努力を惜んではならないということである。高村氏の村誌一冊に国府村の伝承を止めることは、国府村民の怠惰である〃――と。

ところが、国府村民は決して怠惰ではなかったのである。国府村の名は、後免町から南国市へと、大いなる発展の際に消えたが、国府地区の人々は、高村氏の伝承の精神を立派にうけつぎ、これを内外に発揚することとなった。それがこの新『国府村史』である。

新村史は、国府村史編纂委員会編となっているが、その主なる著述が、国府出身の竹内英省氏によってなされていることは、村史をひもといてすぐわかるところである。まことに竹内氏が居なければ、この大事業はできなかったのであろう。実にその人を得たと云える。竹内氏は多年本県操觚界にあって、その健筆をうたわれた人。いまは高知市にあって、種々の公職についておられるが、郷土国府に深い愛情と関心を有する同氏によってこそ、はじめて本書の編纂と出版がなしとげられたのである四六版五百六十余頁に及ぶ豪華大冊で、全く文字通りの労作であり、高知印刷株式会社の良識と卓抜の技術によって本県出版界としても出色のものとなっているのである。

私はこれを一読して、さきに書いて高村氏村誌への讃辞が、そのままぴったりとあてはまることを感じた。

（未完）

南国あちこち

最近、道にまつわる話がかずかずできた。穴内川ダム建設計画に伴う久礼田の直線県道計画、篠原へ四月起工する県立東工高の正面道路（市費百二十三万円で工事中、延長百八十メートル、幅六メートル）。

ところで市の生命線、県道後免―里改田線も三十四年から舗装工事にかかり、一部は写真（右）のように完成し、輸送効果を上げている。全線完成は三十八年度のようだ。

諸車の通行がふえたため、泣いているところもある。岡豊町の北部を通る国道高松―高知線が舗装されているため、重量のある車は同町八幡から県道で南へ出、大津村の領石通りで高知や後免の方へいくことになっている。

このため岡豊の中島方面の道は大損傷。田へ道がはみ出したり、側溝はつぶれる。

通行人は危険となり、市農業委員会らが関係部落とともに問題だと取り上げ、このほど県当局へ善処方を厳重に申し入れた。

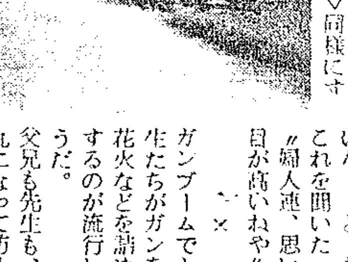
だまっていたら、国道工事がすんだあと、道は損傷したまま捨てて置かれる心配もある。（写真中が問題の県道）

×

道の完備は文化のバロメーターでもあるが、いわば〝風情〟というようなものを失なうこともある。

写真下は農業高校の東、野田を流れる舟入川支流ぞいの風景。

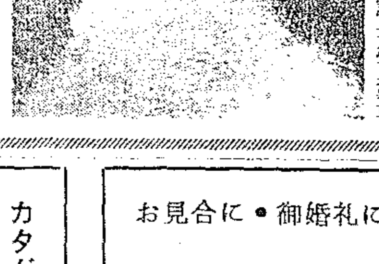
水面にかがよう早春の陽光、白い路面も春めかしく、果てしなく沃野は続き心なごむのを覚えるが、近く改修され固い表情？をたたえるという。



×

十四日に模擬議会を開いた南国市連合婦人会ので歴々。これに備えて七日の市臨時議会を傍聴したあと、こっそり話し合っていた。市議諸公には耳が痛い話。▽思いのほか緊張した空気でない。▽同様にすっきりした運営ともいえない。▽議長が万事事務局長の書いたものを朗読していくのは感心しないな――など、など。

これを聞いたカゲの声〝婦人連、思いのほかお目が高いねや〟



×

ガンブームでとくに中学生たちがガンを手製。花火などを詰めて発砲？するのが流行しているようだ。

父兄も先生も、警察も一丸になって防止に乗り出す必要がある。

衛生

アルコール中毒症

アルコール中毒患者は、最近次第にふえて、戦前の約二・五倍以上の数にのぼってきました。アルコール中毒症といえば普通慢性アルコール中毒を意味しますが、その範囲をきめることは、中々むつかしいことです。まず酒をのまずにおられないという人で、月給をみんな酒代に使ってしまう状態から、胃腸障害、肝臓障害、神経炎さらに精神症状をおこしたり、合併症をきたすものを加えると、かなり数が多くなってきます。アルコールを飲むと、おなかがすかなくなるので、栄養剤と思っている人がかなりありますが、のんだアルコール一割が肺と腎臓から、息や尿となって排出され、残りの九割は、体の中でもえて、皮膚の表面の血管を広げ、熱をうばうだけで、筋肉の働きのエネルギーとはなりません。酒を飲んで働くと、かえって体が疲れ、弱ってしまいます。麻酔薬の一種であるアルコールも、一日に日本酒で二合以内の量であると、左程体に害はない様です。中毒患者と普通の人がのんだアルコールの血中の濃さはかなり違っており、中毒初期では吸収が非常に早く、中毒が進んでくるにつれ吸収がおそくなり、酸化がおくれて、血液中に長くアルコールが残ることになって、いろいろと合併症を併ってきます。

酒に酔った場合、早く酔をさます方法について、熱いお茶や、柿がよいといわれていますが、それは両者に含まれている、ヴィタミンCや、柿の中にある果糖が、血中のアルコール濃度の上昇を抑えるためです、インシュリン葡萄糖、グルクロン酸、チオクタン、エフェドリン等の注射も使われます。またメチオニン、オロトン酸等の服用もある程度効果があります。酔った場合、クロルプロマジン（コントミン、ウインタミン等）もアルコールの興奮状態を鎮めるのに役立ちます。

最後に、酒が嫌いになる薬に、アンタビユース（ノックビン）、シアナマイド等の薬がありますが、副作用があるので、必ず医師の指示のもとに治療すべきです。

要するに、酒はほどほどにのむべきもので、酒にのまれて中毒にならないようにしたいものです。

山本尚一

ヒヨコ
強健多産
春雛予約受付中
嶺南孵化場
カタグロ進呈
南国市後免町・電話267

お見合に・御婚礼に
山崎写真館
南国市後免中町
電話（南国）354